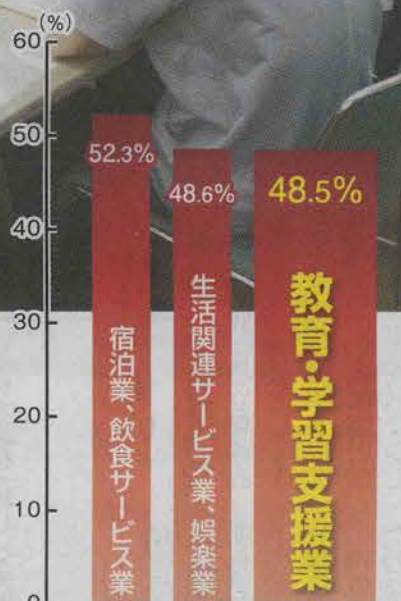


ほぼ半数が3年で辞める

教職員の嘆きと実態



離職率が高い業種 (厚労省)
2011年3月の大卒者3年以内

「人手不足」が深刻化する中、相変わらず若者の職場定着率は好転しない。大卒が3年以内に勤めている会社を辞めてしまう離職率は3割というのが全体的な傾向だが、意外なのが業種別で「宿泊業、飲食サービス業」と並んで最ワーストクラスを長く続けているのが「教育、学習支援業」だという事実だ。「我が国の未来を切り拓く」(教育基本法)子どもたちの成長を手助けし、「社会の形成者」として必要な資質を備えた心身とも健康な国民の育成(同)に従事する教職員の状態がこれだけ良いはずもない。どこに原因があるのか、現場の声を拾ってみた。(若野正太郎)

「七五三退社」が止まらない

若者が勤めている会社をすぐに辞めてしまう傾向は「七五三退社」と呼ばれている。これは勤めた会社を3年以内に退社してしまう割合が、中卒で7割、

高卒が5割、大卒では3割というところからだ。決して引く手あまたの就職戦線になったわけではないにもかかわらず、早期離職率は高いままである。しかも厚生労働省の調査によると、大卒については、悪化が止まらないという状況だ。

「悪い労働環境」によるストレス

そして2011年3月卒業者の離職を業種別でみると、ここ10年ほどワースト1、2位を争ってきた「宿泊業、飲食サービス業」(52.3%)と「教育、学習支援業」(48.5%)に、今年度は「生活関連サービス業、娯楽業」(48.6%)が割って入ってきている。

それにしても心配なのが教育関係の高い離職率だろう。そこで若手からベテランまで、現役、退職者も含め、複数の教職員に「早期退職者が多い理由」をぶつけてみた。

「労働環境が悪すぎる」。ほとんどの教師がこれを真っ先に口にしていた。具体的には「モンスターペアレンツ」の要求が通り過ぎる」と嘆く。

例えば「あの子とは6年間、絶対に同じクラスにしない」と要求されてもそんなことはできません」とは答えられないのが、最近の現場だという。上司は「トラブルを起こさないように」と指導する。そして問題が起きないようにとの点を重

注意されると辞める「ブツン教師」

視するあまり、モンスター要求を通してしまふ。ますます保護者は凶に乗り、何でも通るとばかりに次々と無理難題をぶつけてくる。しかも学校のトラブルまで持ち込まれるが、対応しなければいろいろな手段で教師批判を展開されてしまふのだ。

「子どもの質が変わった。辛抱できない。教師に対する尊敬心をまったく持っていない」のも、ストレスの原因になっている。授業態度がひどい子どもに注意すると「殴ってしろ、(親に)言ってる」と反対に脅される。つまり子どもや親、さらには同僚や先輩との人間関係をうまくコントロールできなくて、いやになって「退職」してしまう新入教師が多いという。

超低離職率の「新教育総合研究会」

一方、教育業界で平均の4分の1にすぎない、13.3%という超低離職率を誇っているところがある。大阪市に本社を置く「新教育総合研究会」で、ここは182校の個別指導塾を運営しているが、低い離職率のおかげで学期途中で教室スタッフが替わることはあるがクレームがない。しかも保護者の間で飛び交う口コミで、この事実が広がり、同社は保護者の注目を集める存在になっている。

同社は社員間の交流が活発だという。「風通しを良くし、対話を重視」した結果だ。やはり職場の人間関係が重要で、悪ければ離職に大きく結びついているといえるだろう。

また「社員の物心両面の幸福を追求する」とし、「残業しない、休みを取りやすい会社にした」のも定着率アップに貢献しているようだ。

それにしても「教育・学習支援業」の早期離職率が高いという現実には、わが国の将来を考える上で放置できない問題ではないだろうか。業界だけでなく、国民全体で頭をひねる必要があるかもしれない。

「日曜の夜、ザザエさん」がテレビで始まると憂鬱うつになる者が多い。学校へ行きたくない病だ。まさにブラックマンデーが教師の現代病だ」と保護者にとって衝撃的な事実を告げる現場がある。

ブラックの原因は、教委に仕事をどんどん増やされ、どう考えても「無理やろ」という仕事まで要求されるからだという。そのため休日出勤して仕事をこなしている、保護者から電気代がもったいないから、休日は出かけるな」と苦情をいわれる。「どうするんがもうやめや」とつながったケースもあった。

しかも待遇がかなり悪い」と重ねて不満を口にしている。「出勤日数や勤務時間が増え、ストレスも倍増しているのに、給料は下がっている。しかも福利厚生がカットされ、サービスが減った」というわけだ。

とりわけ大阪の教職員の給与と表額は数年前から全国最低のレベルになっているとか。そのため辞めやすい若い教師は、条件が良い他府県に移ることも少なくない。